

通し番号	4 1 7 4
------	---------

分類番号	17-32-13-04
------	-------------

(成果情報名) カキ新品種「 ^{そうしゅう} 早秋」「 ^{かんしゅう} 甘秋」「 ^{きしゅう} 貴秋」「 ^{たいしゅう} 太秋」の将来性評価
[要約] <p>県内カキ生産者にアンケート調査を行ったところ、食味総合評価では「太秋」の評価が最も高く、以下「甘秋」、「早秋」、「貴秋」の順であった。また、栽培導入についても「太秋」の導入を考える生産者が多く、「早秋」「甘秋」がそれに続いて同程度の評価、「貴秋」は消極的評価だった。</p>
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター果樹花き研究部 連絡先0463-58-0333

[背景・ねらい]

カキ新品種「早秋」「甘秋」「貴秋」「太秋」は10月に収穫販売できる完全甘柿で、色、形、食味等にそれぞれ特徴がある有望品種である。ここでは県内カキ生産者による食味を中心としたアンケート調査を行い、品質の評価及び品種の将来性等について検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 平成17年10月12日に開催された神奈川県果樹組合連合会主催のカキ現地研究会に参集した県内カキ生産者に品種ごとの試食・アンケート調査を実施し、42人から回答を得た。
- 2 果実外観評価では、「太秋」「貴秋」の評価が高かった(図1)。
- 3 甘味の評価については、「太秋」が最も優れ、次いで「甘秋」が優れていた。「貴秋」の評価は低かった(図2)。
- 4 4品種ともに果肉の硬さは「ふつう」～「硬い」とする評価が多かったが、特に「貴秋」は硬いという評価が多かった(図3)。
- 5 果汁の豊かさは「太秋」の評価が高く、その他の品種はふつうであった(図4)。
- 6 食味を総合評価すると、「太秋」が非常に高く評価され、以下「甘秋」「早秋」「貴秋」の順であった(図5)。
- 7 最後に、食味検討を踏まえて自分の経営に導入する可能性について尋ねたところ、「太秋」は導入に対して前向きな評価が高く、補助品種または主力品種として導入するという回答だった。「早秋」「甘秋」の2品種は同様の評価となり、「もう少し検討」～「補助品種として」までの3段階に分散した。「貴秋」は「もう少し検討」と「試しに」という評価が多く、4品種の中では「導入しない」の回答が最も多かった(図6)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 10月12日(アンケート実施日)は、「早秋」は収穫終期、他の品種は収穫始期にあたる。
- 2 新品種の導入に当たっては、栽培特性等まだ明らかになっていない部分が残されているので、指導機関との十分な検討が必要である。

[具体的データ]

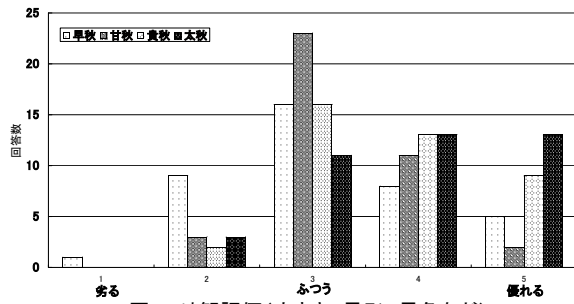


図1 外観評価(大きさ、果形、果色など)

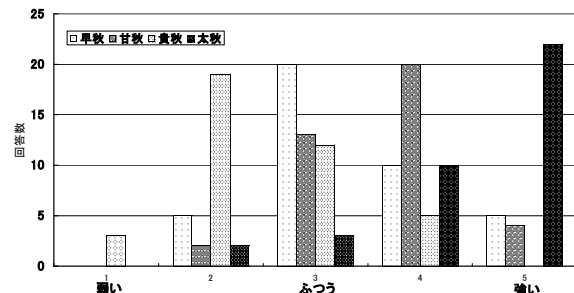


図2 食味評価(甘味)

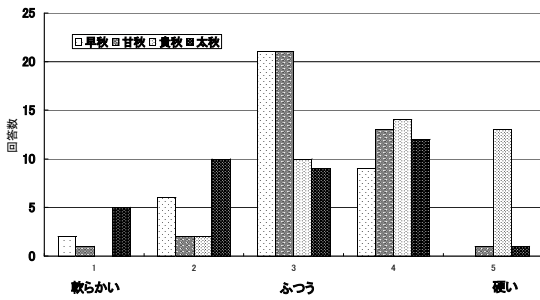


図3 食味評価(硬さ、歯触り)

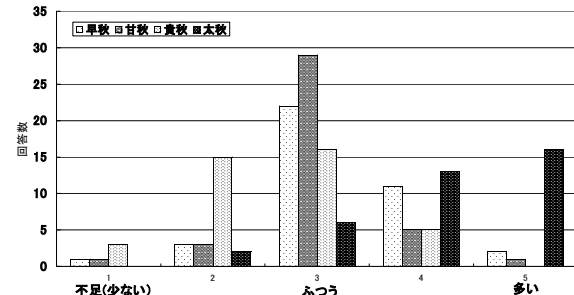


図4 食味評価(果汁)

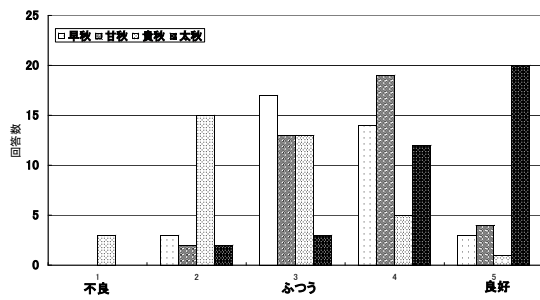


図5 食味総合評価

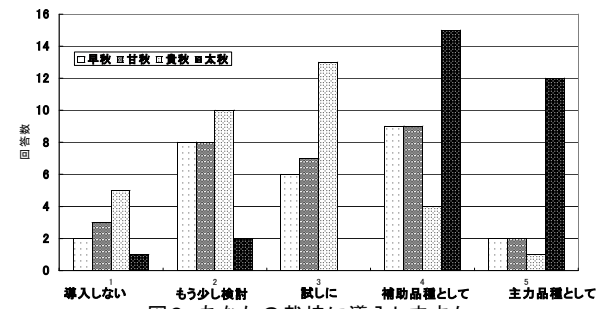


図6 あなたの栽培に導入しますか

(参考) 供試品種の収穫期 (当センター圃場)

早秋	9月下旬 ~ 10月上旬
甘秋	10月上旬 ~ 10月下旬
貴秋	10月上旬 ~ 10月下旬
太秋	10月中旬 ~ 11月上旬

[資料名] 平成17年度試験研究成績書 (果樹)

[研究課題名] カキ新品種の将来性検討

[研究期間] 平成17年度

[研究者担当名] 北尾一郎・関達哉